

## 風の吹く丘

～最終回～

H・IMAGINE

### 遺伝子

天神のシアトルコーヒーの窓側の席に座り、行き交う人を眺めていた。やはり外国人が多い。中国人らしき集団、韓国人と思しき集団、インドネシアやマレーシアなのかヒジャブを被った女性たちに加え、最近では更に南方の方々が来日されているようである。同じアジアの同胞で我々に似てはいるが、顔立ちやファッションや振る舞いが微妙に違う。生まれ育った環境が違うので、常識も異なる。日本全体が、クルド人が多数住み着き騒動を起こしている川口市の様になっては困る。ドイツでは安価な労働力に期待して移民を受け入れた結果、様々な対立が起きた。「労働力を求めたが、やってきたのは人間だった」と言う彼らの教訓を生かさなければならない。

外国人の力を借りて経済発展を進めるのか、多少の不具合に目を瞑り調和のとれた社会を維持するのか難しい選択だ。勿論、二者択一ではないが、双方をバランスよく受け入れて調和させるのは至難の技だ。“和をもって貴し、とする日本人と”我をもって貴し、とする一部外国人とでは、そもそも話が噛み合わないのだから。レベルの低い外国人が増えると治安が悪化する。優秀な外国人ばかり受け入れると、日本の支配層は外来種ばかりになり、在来種は淘汰されるのかもしれない。

往来を通る人の中でも目を惹くのは綺麗な顔立ちの女性である。この綺麗な顔立ちに惹かれるって何だろう。我々の種の保存に於いて何のメリットが有るのか。透き通った目の持ち主は心臓が強く血流が淀みないとか、鼻筋を通った高い鼻の持ち主は肺活量が大きく多少の労働では息が上がらないとか、キリリと締まった赤い唇は消化器系が強く少々痛んだ食材でも問題なく食えるとか、きっと何かある筈だ。

美容整形で外観を一変させるのも一つの方法だが、これは一代限りで子孫には遺伝しない。美容整形で見てくれを整える文化が民族に定着すると、自然な淘汰が阻害されるので美貌に執着する精神と裏腹に、見目麗しい子孫の増加はその民族には望みがたいだろう。そのうち遺伝子から操作できるようになるのか。皆が同じ顔になれば、また違う選択肢が生まれるのか。謎だが興味はある。

## 訃報

河村哲夫先生がお亡くなりになった。8月22日の金曜日に先生の講義を聞いたばかりだったので25日の訃報にしばらく呆然とした。

先生に誘われて、ここに投稿することになり、自分の視点で4話投稿してきた。最後の投稿も、先生が仰っていらした通り古代史に捕らわれず自由に文章を書いてゆきたい。

## 生と死

中学生の頃、まだ生や死について考えていた頃、地面を這うミミズが危険を察知した時、なぜ必死に逃げようとするのか不思議に思った。脳が無いのに何故逃げる？動物や昆虫だけじゃなく、全ての生き物が死を回避しようとする。なぜだ？ある日ふと頭に浮かんだ。『そっか、死を回避しない生き物は死に絶えたのか』と。ミミズは脳が無くても生命の危機を察知した時に、全力で回避するシステムが備わっているから生き延びて来たのだ。死ぬ事は怖い。死を回避するシステムは恐怖で支配する事が一番効果的なのだろう。そう思いついた時から、死に対する恐怖は少し軽くなった。どうせなら生き延びた時にドーパミンの大量放出みたいに快楽物質で支配してくれたら良いのに。しかしこの方法では快楽物質を得るために敢えて危険を犯すので、死ぬ可能性が高まる。やっぱり死を回避するシステムは恐怖による支配が適しているのだろう。

私たち生物に与えられた使命は、生存と生殖である。必死に生きようとし、生のバトンを次世代に託そうとする。しかし私たちには寿命がある。高齢化すると生きる為の様々なスイッチがひとつひとつオフになり、死んでゆく。これは私たちの遺伝子にプログラムされたシステムだ。今の若い世代の日本人は足が長くなり頭が小さくなった。食物繊維を摂らなくなったから、腸が短くなり腸を収める胴は短くなったのかも知れない。硬い食物を食べなくなったから頭が小さくなったのか。前傾してパソコンや携帯を長期間見るのなら、頭が小さいほうが首や肩には負担が小さい。頭が小さくなったのだから、当然脳も小さくなっているはずだ。森や草原で食物を採取し、捕食者から身を守るセンサーは現代社会では必要が無い。ある部分は退化し、ある部分は進化し現代社会に適応して来たのだろう。やはり、新しい環境に適した体を人類が手に入れるには、世代交代した方が都合が良さそうである。

## 儚さと逞しさ

平家物語や方丈記などは、栄枯盛衰や人の世の移り変わりを伝えている。滅亡した平氏が代わり源氏が支配層になった。町に住む人が入れ替わってもやはりそこに住むのは人である。私たちの脳には『生きる』とプログラムされているが、肉体には老化と死のプログラムが用意されている。私たち個々の肉体にプログラムされた「死」は、種の多様性を維持し、新しい環境に適応するための「リセットボタン」である。個々の生を追求させつつ

も、私たちが生きる事の最終的な目的は種の保存である。個人の一生は儂くもあるが、種としての人類は逞しい。生物は優れた遺伝子を後世に残す為に恋人探しに夢中になり、自分と自分が認めた異性との遺伝子を子孫に託す。だが私たち人間は、遺伝子を直接残さなくても優れた技術や思想や文化を子孫に残す事が出来る。

### 河村先生の遺伝子

先生は逝去されたが、先生の遺された動画や書籍でこれからも古代史を勉強していこうと思う。YouTube や『日本古代通史』は未完に終わったが、これらの完結が見える頃には次の目標に向かわれたに違いなので、先生の生涯において何かしら未完に終わるのだと思う。

これからも、先生の遺された資料で先生と会話を続けていくつもりである。沢山の資料が有るので、恐らく私は私のスイッチが全てオフになる迄ずっと先生と会話を続けていくのだろう。12月には先生の企画された奈良の旅に出てみようと思う。

河村先生、ありがとうございました。

ご冥福をお祈り申し上げます。